



看護職 キャリアパス 支援センター

京都大学
KYOTO UNIVERSITY

Kyoto University Hospital
Nursing Career Path
Support Center

病院と学部、地域医療機関等との相互人材交流推進で、総合的な看護力の底上げを！
地域や医療機能の枠を超えた新たな人材交流プログラムを推進しています！

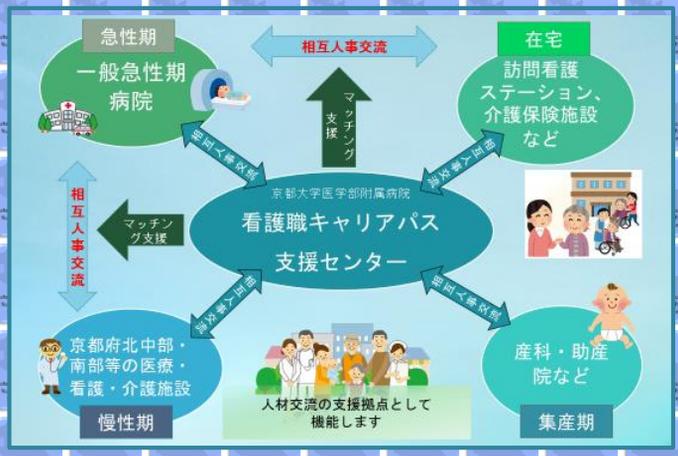
センターの概要

看護職キャリアパス支援センターでは、京都大学医学部附属病院と京都大学医学部人間健康科学科並びに地域医療機関等との間で相互の人材交流を推進する事を目的とします。

特に、地域医療機関等との相互人材交流の推進においては、京都大学医学部附属病院から他施設への看護師等の長期派遣、並びに他施設から京都大学医学部附属病院への長期受入れを行う人材交流システムを確立する事により、京都府下における看護師等の人材交流を活性化させ、医療機能分化における施設間連携に強い看護師等の養成を目指します。

機能の異なる病院間の人材交流によって、それぞれの現場を知り、お互いの強みを活かすことで質の高い看護、チーム医療が提供できるのではないかと考えています。

当センターは、その「橋渡し役」として機能して参ります。



「施設間の連携に強い看護師養成プログラム」は、それぞれの医療機関や訪問看護ステーションとの間で実施する人材交流プログラムです。
看護師・助産師の方々は在籍先となるため、現在所属の医療機関をとおしてお申し込みください。
お申し込みはこちらから -----> <http://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/~nrcareer/>

看護職キャリアパス支援センター
お問い合わせはこちら

継続看護のリレーのボタンをつなぐ～私たちの思い



同じ笑顔でも、おそらく病院で見せるものとは違って、そこに触れることができる、派遣を希望して良かったなと思います。

京大病院では搬送を受け入れる立場だったのですが、今は送る側に。搬送元の病院がどんな気持ち、考えて妊婦さんを送り出すのかわかったのも、いい経験になりましたね。

在宅看護に関わる中で、入院はあくまで通過点で、生活の場へ帰るときのことを予測しながら日々患者さんと接することが大切だということに強く気づかされるようになりました。

今までは不安を抱えて退院していく患者さん、ご家族をごちらも不安な思いで見送ることが多かったのですが、これからは病院からも積極的に介入していきたいと思っています。

大きな枠組みでは同じ"看護"をしていても、環境に応じて求められる看護も変わるということに気づき、自分の行っていたケアや関わりを見直すきっかけになりました。

自分自身の成長のために派遣を希望しましたが、綾部市立病院に戻ったら、京大病院で学んだことを伝え、みんなのレベルアップのためにも役に立ってほしいなと思っています。

がんを抱えて、余命を知っていても前向きな表情でいられる。がんと治療による辛い症状がなくなるというのは、こんなにも良いものなのだと改めて実感することができました。

中堅助産師・看護師のみなさん、このプログラムにぜひチャレンジしてください。
私たちひとりひとりの看護の幅を広げることが、患者さんを幅広く支えることにつながります。